

二〇二四年度 大学院（修士課程）入学試験問題

（文学研究科 全専攻共通）

（科目名：日本語）

二〇二三年九月九日（土）

受験番号		氏名	
------	--	----	--

左の文章は二〇二一年三月一日、日本の宮城県名取市北釜地区の海辺で、東日本大震災とそれによる津波に遭遇した写真家の作者が、二〇二三年に発表したものの抜粋です。読んで、後の問いに答えなさい。語を改変した箇所があります。

なお、回答はたて書きで記入すること。

【引用部分は削除しています】

【引用部分は削除しています】

(志賀理江子「疲」による 「図書」二〇二三年八月号二六〇二九ページ (岩波書店))

〔注〕○ポストモダン⇨近代の機能主義・合理主義を批判的にとらえ、越えようとする建築・思想の運動。 ○瓦礫⇨破壊された建造物の破片。 ○躯体⇨家の骨組み。  
○躊躇⇨決めかねて迷うこと。 ○北は関上、南は岩沼⇨宮城県の名。直線距離で約一三キロメートル離れている。 ○防潮堤⇨海の波の侵入を防ぐ目的で陸に築造される建造物。通常は堤防のように造り、コンクリートで被覆する。

問一 波線部 a ～ e のカタカナを漢字で書きなさい。

a	b	c	d	e
---	---	---	---	---

問二 二重線部ア～エの漢字の読みを平仮名で書きなさい。

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ

問三 空欄  に入るものとして最も適当なものを一つ選び、番号を書きなさい。

- ① それで      ② たとえ      ③ でも      ④ あるいは

解答番号 (            )

問四 傍線部①「「便利さ」の裏には何か隠されているような気がした」について、作者は何が隠されていたと考えていますか。できるだけ簡潔に説明しなさい。

問五 傍線部②「その写真に触れることすら躊躇していた」について、作者はなぜそのような考えたのでしょうか。説明しなさい。

問六 傍線部③「写真一枚が、大事な人の生身の「体」と同じ意味を持って残された人と再会する」について、写真が写しているものが何であるからそのような力を持つと筆者は考えているのでしょうか。説明しなさい。

問七 傍線部④「掴みよのない」と本文中で同じ意味を持つ語句を、一字で抜き出しなさい。

問八 傍線部⑤「ありありと」という語を、この文章で使われているのと同じ意味用法で用いて、日本語で短文を作りなさい。

問九 傍線部⑥「この私の体は、小さなひとつの海なのだ」について、作者は「私の体」と「海」がどのような点で同じだと考えていますか。説明しなさい。

問一〇 傍線部⑦「目で見ることが、自分の内と直につながり、私を支えている」について、見ることが具体的にどのような行爲につながるから自分を支えてくれるのだと、作者は考えていますか。説明しなさい。

得点